

# HAGIHARA REPORT

2022





## 創業以来、変わらぬ使命で 人々の暮らしを豊かに

人も企業も生きているのではなく、生かされています。

企業にはそれぞれこの世にあって  
果たすべき使命・役割があるのです。

これからも萩原工業は、フラットヤーン技術が

生み出す製品や関連機械を通じて、  
世の中の人々がより安全で快適に、

そして効率的に経済活動が出来るように努力いたします。

人と製品が活性し続ける企業、それが萩原工業です。

# CONTENTS

## プロフィール

### SECTION 1

- 3 萩原工業のあゆみ
- 5 萩原工業の強み
- 7 トップメッセージ



## 戦略

### SECTION 2

- 9 萩原工業のグローバル展開
- 11 萩原工業グループの製品・サービス(合成樹脂事業部門)
- 13 萩原工業グループの製品・サービス(エンジニアリング事業部門/子会社の概況)



## サステナビリティ

### SECTION 3

- 15 萩原工業とサステナビリティ
- 17 Environment-環境への取り組み
- 19 Social-社会への取り組み



## ガバナンス

### SECTION 4

- 21 Governance-ガバナンスへの取り組み
- 23 特別対談



## 企業情報

### SECTION 5

- 27 5カ年財務・非財務サマリー
- 29 国内・海外拠点一覧/株式情報・会社概要



## 編集方針

HAGIHARA REPORT 2022は、ステークホルダーの皆様へ、萩原工業グループの事業やCSR活動についてわかりやすく報告することを目的として作成しました。

本レポートを通じて萩原工業グループを一層ご理解いただき、ステークホルダーの皆様と企業価値向上に向けた対話の機会を創出していきたく考えています。

### ●対象期間

2022年10月期  
(2021年11月1日～2022年10月31日)  
※一部、上記期間外の情報も含まれています。

### ●対象組織

萩原工業株式会社  
及び子会社

### ●発行時期

2023年3月

HAGIHARA  
REPORT  
2022

### 表紙について

右上がりに伸びるフラットヤーン。その技術の持つ可能性から新たな価値を編み出し、世界に貢献できる製品を届けていきたいという想いを表現しています。

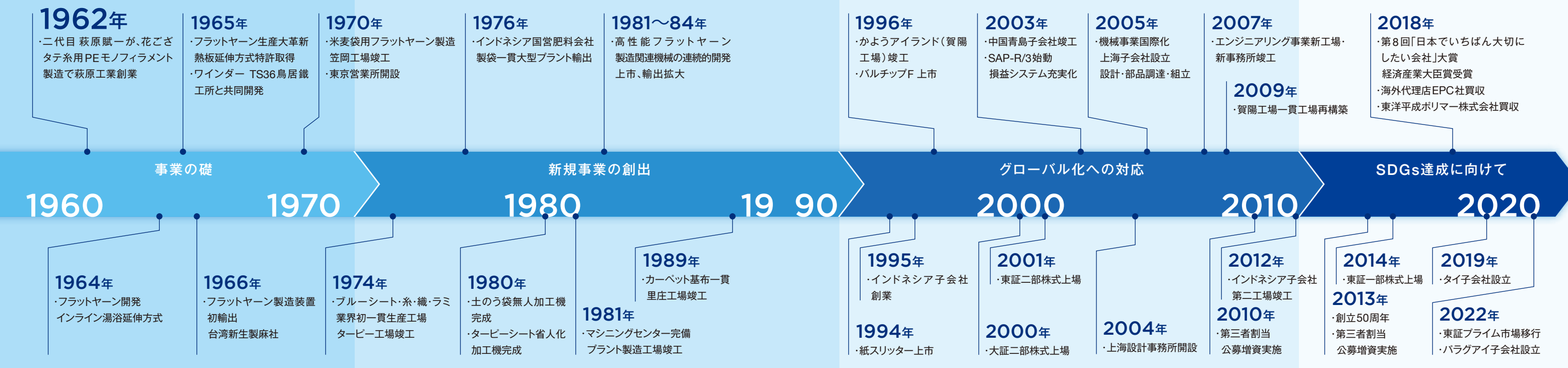
### ●将来の見通し等に関する記述

本レポートには、萩原工業グループの過去と現在の事実だけでなく、発行時点における計画や見通し等の将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手した情報に基づいた判断であり、今後のさまざまな要因によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。

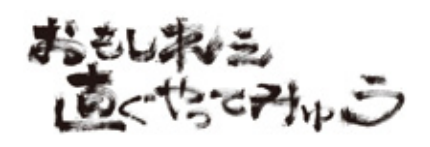


PROFILE | 萩原工業のあゆみ

世の中に役立ってきた歴史、未来への新たな可能性



企業スピリット



「おもしろい!一緒にすぐやってみよう」という、創業者 二代目 萩原賦一の口癖。創業から60年を超えた今でも、会社全体のスピリットとして脈々と活き、社員全体の口癖になっています。

経営理念

萩原工業はフラットヤーン技術を大事にしながら常に変革し続け、世のため人のために役立つ会社であろう。

社 是

- 一、萩原工業は業界をリードする
- 一、萩原工業は信用に生命をかける
- 一、萩原工業は恩義を忘れない
- 一、萩原工業の社員は創意を尚び、自己の責任を果たすことに喜びを持つ

コーポレートスローガン

ハミダセ、アミダセ。

世の中に既存しているものが常識だという固定概念は持たず、岡山というフィールドをハミだして世界に貢献できる製品を届けたい、そのために新たな素材・技術・工法・製品をアミだしていきたい。そんな想いをコーポレートスローガンである「ハミダセ、アミダセ。」に込めています。



## 創業から蓄積してきた独自の強み

萩原工業は、創業者の口癖である「おもしろえ、直ぐやってみよう」の精神を核に、新たな技術の開発や市場の開拓を行い、人々に必要とされる製品を製造・供給してきました。これからもグローバルかつ幅広い分野にわたり事業を展開し、常に新たな価値を創造することで豊かな社会の実現に貢献していきます。

### あなたの暮らしを支えるフラットヤーン

フラットヤーンとは、ポリエチレン、ポリプロピレンのフィルムをスリット(短冊状に切断)し、延伸することで作られる軽く強い平らな糸のことです。フラットヤーンを織ることで、薄くて強い織物が出来上がります。この織物を加工して出来たシートや梱包材等の産業資材や、フラットヤーン技術を応用して出来たスリッターをはじめとする産業機械は、防災、建築・土木、農業、印刷、レジャー等、あらゆるシーンで利用され、あなたの暮らしを支えています。



### 「切る、伸ばす、巻く、織る」の中核技術

当社は、創業以来「切る、伸ばす、巻く、織る」の中核技術を中心に、事業を展開する経営を大切にしてきました。中核技術を深耕させ、様々な付加価値を加えることで、競争力・技術力を高めています。

#### CORE COMPETENCE (コア・コンピタンス)



#### 切る

ポリエチレン、ポリプロピレンのフィルムをスリット(短冊状に切断)する技術。

#### 伸ばす

切断されたフィルムを延伸する技術。延伸することで強い糸になる。

#### 巻く

出来上がった糸を効率的に巻き取る技術。

#### 織る

糸からさまざまな用途のシートや梱包材を織る技術。

### 保全部隊から発足したエンジニアリング事業 P13-14

当社エンジニアリング事業は、合成樹脂事業の保全部隊として発足したのが始まりです。スリッター業界へは最後発参入ながら、ユーザーの要望を取り入れ、使いやすい機械を提案することで、高い評価を得てきました。社内からの厳しい要望や評価に応じてきたからこそ、各業界からの様々なご要望に確実に応えることができます。



### 「現場力」で広がる用途

当社製品は、人々の生活から産業活動まで、あらゆるシーンで活躍しています。実際に製品が使用されている現場に向き実態を理解することで、新たな用途開発に繋げています。

### 自社に精通した営業部門

営業部門には開発や製造に携わっていた社員が多く在籍しています。そのため、世の中に存在しない製品を求められた時でも、萩原工業で実現できるかどうか、即座に判断することができます。

### 積極的な展示会出展

国内にとどまらず海外の展示会にも積極的に出展し、マーケットの開拓を行っています。社会のニーズを見つける「開拓力」を実践的に培わせるため、若手社員も参加させています。

### 14カ国・28拠点のネットワーク P9-10-29

積極的な海外展開により、萩原工業グループの製造・販売拠点は世界14カ国まで増えました。密に連携を取りつつ、それぞれの国や地域に合ったマーケティングを行っています。

新たな可能性を生み出す  
**技術力**

萩原工業を支える  
**3つの力**

社会のニーズを見つける  
**開拓力**

必要とされる製品を形にする  
**具現化力**



### 市場のニーズに応える製品の具現化力

社会が求める製品を提供するためには、固定概念にとらわれない製品開発が必要です。当社では新規製品の開発を積極的に行い、新しい市場や用途を開拓しています。また、当社ならではの特長として、ブルーシートを一貫生産する「合成樹脂事業部門」、スリッター等の産業機械を製作する「エンジニアリング事業部門」、製品評価を行う「開発部門」が自社内に全てあり、三位一体で課題に取り組むこともあります。



### 新しいマーケットの創出、人々の生活に役立つ製品の創造・供給





## TOP MESSAGE

社会課題の解決に向けた  
萩原工業の目指す  
新たな価値の創造とは

代表取締役社長  
**浅野 和志**  
Kazushi ASANO

萩原工業グループは、2022年11月に創業60周年を迎えました。

私たちは萩原工業の成長の礎であるフラットヤーン技術を大事にしながら、ブルーシートやさまざまな織物、それらの関連機械の開発にチャレンジしてきました。現在は、コロナ禍や円安等外部環境は危機的状況ですが、世のため人のために役立つ製品をつくり続けるとともに、飛躍に向けた基盤づくりにも取り組んでまいります。

スタートさせたのが、国内初となる水平リサイクルに挑戦する「Re VALUE+ (リバリュー プラス)」プロジェクトです。

水平リサイクルは、廃ブルーシートを再びブルーシートにする再生方法です。大きな課題は、長期間使用するブルーシートは劣化が著しいため、ブルーシートに再生するにはこれまでにないさまざまな技術が必要なことです。そして、大きく重量があるため、使用した方に洗浄や乾燥をしてもらうことが難しいのではないかとこの課題でした。当初は、ネガティブな意見も出ていました。しかし、「おもしろえ、直ぐやってみよう」の精神で、産学連携による研究を進めたり、実情を把握するための回収キャンペーンを実施したり、分別不要でリサイクルしやすいモノマテリアルのシートを開発する等、実行に移すことで一歩一歩進めてきました。そして、2021年には、賛同していただいた地元住宅メーカーと、「ブルーシート水平リサイクルに関する協定書」を締結しました。

2020年から続けているのが、製造工程でロスとなるブルーシートをトートバッグにアップサイクルする活動「BRIDGE SETOUCHI」

です。きっかけは、2018年の西日本豪雨で倉敷市真備町が被災した時、復興支援のためにブルーシートを寄付したことでした。その後、使い終わったシートをトートバッグに再生し、その売上を復興に役立てる「BRIDGE OKAYAMA」に参加したのです。その経験から生まれたのが、売上の30%を瀬戸内地方の災害復興や防災・減災の基金として役立てる、「BRIDGE SETOUCHI」なのです。

また、コンクリート補強繊維のバルチップは、鉄筋を組んでコンクリートを流し込むより工期を短縮できるため、環境負荷だけでなく働き方改革にも貢献しています。加えて、鉄生産時のCO<sub>2</sub>排出量が、プラスチック起源のCO<sub>2</sub>排出量の何倍もあることが話題となり、昨今、その価値が見直されています。

ほかにも、2021年に開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む「TABLE FOR TWO」に購入代金の一部を寄付できる自動販売機の設置や、自宅療養中の子どもがバーチャル空間でアートを体験できる「大原美術館VR見学ツアー」の支援等も行いました。

古くから「お天道さまが見ている」という価値観が根付いている日本では、SDGsが謳われるはるか前から、もったいないことはしない、ものは大事に使う、ゴミはできるだけ出さないといったサステナブルな行動を当たり前のこととして行ってきたと思っています。そんな日本の企業である萩原工業グループでは、今後もSDGsのゴール達成ありきではなく、お天道さまに怒られない善の経営を貫くという姿勢で、企業としての責任を果たしていく所存です。

#### 新たな価値創造への取り組み

#### グローバル展開とニッチ戦略で次なる飛躍へ

萩原工業は、2022年12月に新中期経営計画を策定・発表しました。その中で、コロナ禍やウクライナ情勢の影響等によって達成できなかった、2019年12月に発表した中期経営計画の目標を達成し、次なる飛躍へとつなげるためのJump戦略を掲げています。それが、「技術を、磨く。」「製品を、広げる。」「市場を、創る。」「社員の成長と幸福を、伸ばす。」の4つです。

中でも現時点でもっとも力を注いでいるのが、「市場を、創る。」に向けたグローバル展開です。実は、萩原工業では、海外旅行

がまだ珍しい時代だった昭和40年代前半から、積極的に社員を海外に送り出していました。そのため、グローバル展開については抵抗感がないという強みがあるのです。

2023年6月には、南米・パラグアイの工場が稼働します。昨今、南米には物流倉庫が次々と建てられているため、先述のバルチップの販売が好調です。インドネシアの工場から次々と出荷しているのですが、輸送のための運賃が高騰していること、何より現地でもものづくりをしないと現地の情報は入ってこないという考えから決断しました。本来ならばブラジルに開設すべきですが、社員の安全を考え治安の良いパラグアイを拠点に南米に市場を広げることを目指しています。

ほかにも、野菜袋の素材としてメルタッククロスを納めている会社との提携で、アメリカ・テキサス州での新工場設立を協議したところですし、環境問題への意識の高さからリサイクル可能なポリエチレン製品が注目されそうな東ヨーロッパも視野に入れています。いずれにしろ、今後のグローバル展開は他社との提携を重視した事業形態で進めていく必要があると思っています。

そうした企業間取引のB to Bを進める一方で、一般向けシートのネット販売や、加工技術を活かしてお客さまのニーズにあったオリジナルシートをつくる等、B to Cにも取り組みます。

また、「社員の成長と幸福を、伸ばす。」の背景には、連綿と引き継いできた「人を大切に」という社の文化があり、時間外労働・有給休暇取得率・離職率の改善、定年延長、禁煙、社員食堂でのヘルシーメニューの提供等を通して、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。加えて、上司と部下が安心して話ができて、解決策をとれる。そんな当たり前のことが当たり前にできる会社でありたいし、社員の成長を促すためにいろいろなことに挑戦させたいと考えています。しかし、本人が受け身では伸びません。「気づきに勝る学習なし」ですから、国内外で異なる環境を体験させる等、気づきを得られる機会を設けていきます。

#### ステークホルダーの皆様へ

#### 「五方よしの経営」で企業価値を高める

萩原工業は、創業当初に倉敷が日本随一の生産量を誇っていた花ゴザのタテ糸として、プラスチック素材のモノフィラメントをつくることからスタートしました。2年後には、延伸テープのフラットヤーンを開発。その後、フラットヤーンに防水性を付加して織ったブルーシートと、自社製品の生産に関連する機械の開発・製造を中心に大きく躍進してきました。

そして2022年、新型コロナウイルス感染症拡大が世界の社会・経済に危機的状況をもたらす中で創業60周年という節目を迎えました。その状況を打ち破り、さらなる飛躍を果たすためにも、社員とその家族、仕入れ先、お客さま、地域社会、株主の幸せを追求する「五方よしの経営」を基本に、萩原工業グループの企業価値を高めるために邁進いたします。

今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



※1 マテリアルリサイクル: 廃プラスチックそのままを原料に新しい製品をつくる技術(再生利用)  
※2 カスケードリサイクル: 使用済みの製品を前とは別の製品や低い品質の製品に再利用すること



## STRATEGY | 萩原工業のグローバル展開

萩原工業は創業当初から積極的なグローバル展開を推進してきました。  
世界中の人々が今よりもっと安全で快適な生活を送れるよう  
国や地域に根差した製品企画・開発を行っています。

### 合成樹脂事業部門

#### タンクライナー

オーストラリア インド



貯水タンクに使われるシートです。コンクリート造タンクに比べ、圧倒的に低コスト短納期で設置することができます。

#### メルタック

アメリカ合衆国



野菜袋に使用される美しい発色のメッシュ素材。優れた通気性で野菜を長持ちさせ、輸送中や陳列中のフードロス削減につながっています。

#### 穀物カバー

アメリカ合衆国



収穫後の一時保存に、巨大な穀物の山を当社シートでしっかりカバー。優れた遮光性と耐水性が強みです。

#### イベント用テント天幕材

シンガポール



イベント時のテント天幕材として、その軽量性と高耐候性が高評価。防災性能を付与した新製品も上市しました。

### エンジニアリング事業部門

#### スリッター

中国



リチウムイオン電池や偏光板等に使用される、高機能部材をスリットする機械。各分野で求められる、厳しい品質基準に応えられる機械性能が高く評価されています。

東南アジア各国



食品や日用品の包装フィルム用スリッターや巻返機が東南アジア各国で使用されています。安定した稼働により、生産性の向上と不良品の削減に貢献し、市場を拡大しています。

### 子会社

#### BarChip

アジア



インドネシア高速道路の高架工事で、リンクスラブ部分に耐久性向上を目的にバルチップが使用されました。

ヨーロッパ



オーストリア・イタリア間に建設中で、完成後には世界最長となるトンネルの区間の吹付けコンクリートにバルチップが使用されました。

オーストラリア



2022年の建設功労賞を受賞した、オーストラリア最大の公共交通プロジェクト「シドニーメトロトンネル」にて吹付け用途でバルチップが採用されました。

北アメリカ



北米初の完全無筋のバルチップ補強コンクリートセグメントが洪水排水トンネルで採用されました。

北アメリカ



北米初の合成樹脂繊維補強の軌道スラブとしてニューヨーク地下鉄工事に採用されました。

南アメリカ



高速道路・水力発電所のトンネルや舗装等のインフラ工事及び鉱山にバルチップが使用され、その量は年々増加しています。

南アメリカ



10万㎡を超える大手自動車メーカー工場の土間床等、多数の大規模工場や倉庫にバルチップが使用されています。

#### PT.HAGIHARA WESTJAVA INDUSTRIES

インドネシア



インドネシア子会社では、食品安全認証の国際規格である「FSSC22000」を取得しました。クリーンルームの新設も行い、安全性の高い食品用紙袋を提供しています。



# 合成樹脂事業部門

## 産業資材

### シート・土のう

#### 環境

60%以上の再生原料を使用したシート、アルミハトメの代わりにジョイントホールを採用したシート等、環境に配慮した製品も展開しています。



#### 防災・減災

耐候性・耐水性等に優れたシートや土のう、水に浸して約90秒で膨らむ吸水土のう等、いざという時に安全・安心を支えます。



### フレキシブルコンテナバッグ

粉末や粒状物を保管・運搬するためのバッグは、軽くて丈夫なのが最大の特徴です。通気性があるメッシュタイプのバッグは野菜の保管・運搬に最適です。



### 薬剤放出コントロール技術

「レイシス®」はフィルム内に薬剤を浸み込ませ、その放出をコントロールする技術です。放出量が一定で、最初から最後まで安定した効果を発揮します。



#### 建築・土木

防災・防音・防塵等の機能を持ったシートは、建設現場の安全と周辺環境を守ります。



#### 農業・畜産

太陽光を乱反射させ作物の光合成と色付けを促進する反射シート、畜産施設の環境を整える遮光シート等、質の高い良品供給をサポートする製品が揃っています。



## 生活資材

### 原糸

「フラットヤーン」「モノフィラメント」と呼ばれる合成樹脂の糸。柔らかく丈夫な特徴を活かし、人工芝やおそうじモップとなって活躍しています。



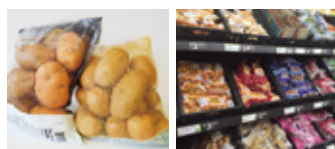
### 粘着原反

梱包時に重宝する粘着テープは、フラットヤーンの技術でタテにもヨコにも簡単に切れる手切れ性を実現しています。



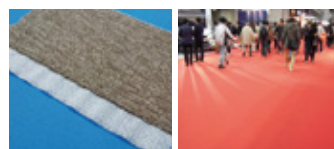
### メルタッククロス

フラットヤーンを使用した熱融着クロスで、果物・野菜用包装袋等に使用されます。目ズレ・ほつれが起りにくく、軽量かつ高い強度を誇ります。



### カーペット基布

カーペットでパイルを差し込む基材等に使用される、高強度かつ低収縮のフラットヤーン織物です。抗菌加工や防タニ加工も施せます。



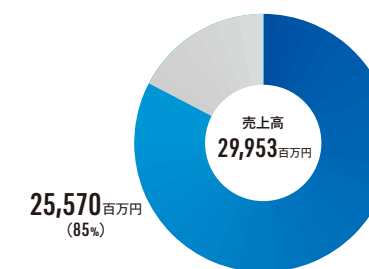
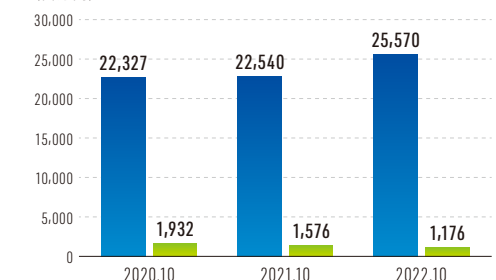
## 事業概要

### 2022年度の実績

合成樹脂事業におきましては、シート関連や土のうが流通在庫の増加及び防災備蓄の需要減少等により不調であったものの、海外向けのコンクリート補強繊維「バルチップ」、包装資材用途のメルタック、農業や工業用途のラミクロスが好調に推移し、製品値上げ効果も重なり、全体では増収となりました。一方で、原材料価格、海上運賃、電力費等の高騰及び円安による輸入コスト上昇の影響を受け、製品価格への転嫁に注力してまいりましたが、価格転嫁が損益に反映されるまでのタイムラグの発生及び主にシート関連、土のう、粘着原反の販売量減少により減益となりました。

インドネシア子会社「ハギハラ・ウエストジャワ・インダストリーズ社」におきましては、主要生産品目であるフレキシブルコンテナバッグが日本での需要減により不調であったものの、バルチップの生産は堅調に推移しました。国内子会社「東洋平成ポリマー株式会社」におきましては、原材料価格高騰に伴う製品への価格転嫁と生産品目の再編による生産効率の改善を進めたことで増収となりました。なお、中国子会社「青島萩原工業有限公司」につきましては、2022年6月、公共事業に伴う土地収用対象に指定され、同年7月末に操業を停止いたしました。

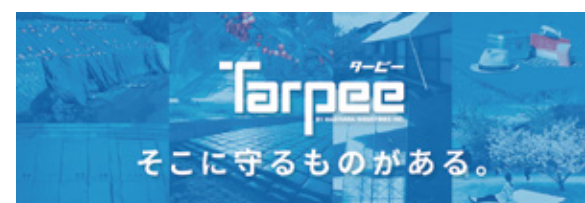
売上高・営業利益 (百万円)



## TOPICS

### シート・土のうブランド「Tarpee」立ち上げ

ブルーシートのトップメーカーとして、高品質な製品を使用用途に応じて提供したいとの思いから、萩原工業製シート・土のうブランド「Tarpee(ターピー)」を立ち上げました。防災・エコ・働きやすさ・耐候性・デザインに特化した製品別にカテゴリー化することで、最適な製品選択を可能とします。



### 「笠岡新工場」建設計画の進捗状況

笠岡新工場(岡山県笠岡市)の建設が進んでいます。現在、当社の主力製品であるシート製品の生産は、工程別に3拠点に分かれて行っていますが、笠岡新工場にコーティング及び裁断・溶着等の加工工程を集約することにより、2拠点体制に移行する計画です。生産効率化及び生産能力増強と加工工程の強化により、お客様の多様なニーズに対応した高付加価値な製品づくりを進めてまいります。



## MESSAGE

合成樹脂事業部門長 犬飼 正樹



### グローバル展開、環境配慮の強化と顧客ニーズの対応を目指して

2022年10月期は原材料価格、海上運賃、電力費等の高騰の影響を受け製品への価格転嫁、各種調達の見直しを行いましたが増収減益となりました。

2023年10月期はグローバル展開として物流リスク、関税障壁をなくした海外現地生産化への着手、環境対応として水平リサイクル技術開発と販売スキームの確立、ニッチな市場でのNo.1戦略として多様化する顧客価値を具現化する為の加工業の整備・拡大、シート土のうブランドの再構築を基軸にお客様に選ばれるものづくりと事業運営に取り組んでまいります。



## エンジニアリング事業部門

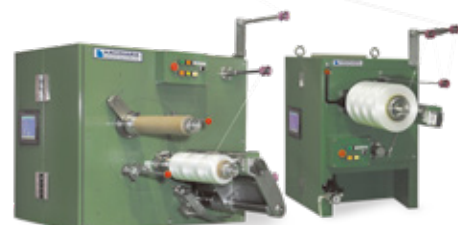
### スリッター

シート状の長尺巻物を巻出し、任意の幅に切断、その切断された材料を再び巻取るロール加工機械。レシートロール紙、ペットボトルラベルから液晶フィルムまで、材質・用途に合わせて様々な「切る」を高いレベルで実現しています。



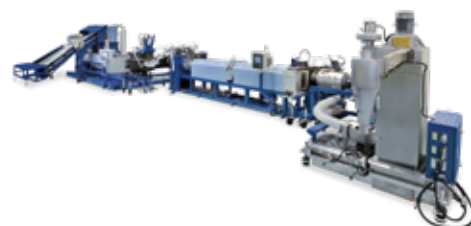
### ワインダー

合繊糸、マルチフィラメント等の巻取工程におけるドッキング作業を効率的に行います。



### 再生ペレット製造装置

様々な廃プラスチックの粉砕から溶融、ペレット製造までを一体化。再生プラスチックの原料となるペレットを製造します。

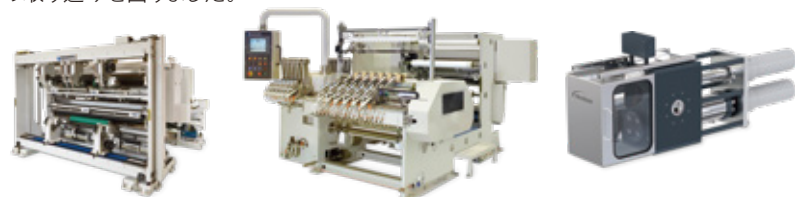


## 事業概要

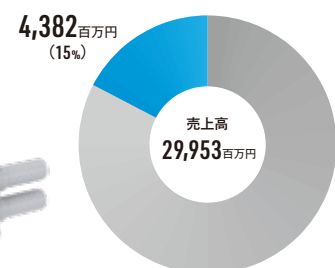
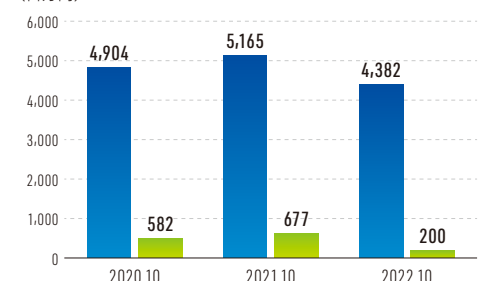
### 2022年度の実績

機械製品事業におきましては、主力製品のスリッターにおいて、電装機器を主とする部品の長納期化、また、世界情勢や為替動向等を理由とした顧客の設備投資決定の遅れのため、当期に計画していた製品売上に遅れが生じ減収となりました。一方で、押出関連機器においては、リチウムイオン電池セパレーター増産に連動してスクリーンチェンジャーの需要が堅調、リサイクル関連機器においても、水平リサイクルに対する関心の高まりがあり増収となりましたが、全体では減収となりました。

製造現場の人手不足を解消するための省人化・自動化されたスリッターの引き合いや常設しているテスト機でのリサイクルテスト依頼が増加する等、受注環境は好転し、コロナ禍で見送っていた展示会への出展を再開する等、需要の取り込みを図りました。



売上高・営業利益 (百万円)



## TOPICS

### 高品位樹脂再生プロセス「GXライン」完成

温室効果ガスの排出削減という世界共通の重要な課題を解決するための一つに、使用済みプラスチックのリサイクルがあります。適切にリサイクルすることで、廃棄物として処理するよりも温室効果ガスの排出量が削減できます。

当社では、一般回収されたペットボトルから再び飲料用ペットボトルを作り出す水平リサイクルに欠かせない、高度濾過器を販売しております。

この分野の先端技術と、自社製品であるブルーシートにおける水平リサイクル技術を融合し、高品位樹脂再生プロセス「GX(グリーントランスフォーメーション)ライン」を完成させました。

この「GXライン」はペットボトルに限らず多方面のお客様にテストのご要望をいただいております。多種多様なプラスチック製品の水平リサイクルを通じて、循環型社会の実現に貢献してまいります。



## MESSAGE

エンジニアリング事業部門長 飯山 辰彦

### 製品力の強化とものづくりの基盤強化により、お客様の生産改善に貢献

2022年10月期は、競争力の強化をテーマに運営いたしました。上海市都市封鎖による子会社操業停止と半導体等を中心に電装機器が長納期化したことが大きく影響し、減収減益となりました。

2023年10月期は、GX市場への製品力強化とものづくりの基盤強化をテーマとして、営業面では電池部材の関連加工機やマテリアルリサイクル設備等の受注開発を推進し、製造面ではサプライチェーンの見直しと現場力強化の取り組みを進めてまいります。電装機器の長納期化も2023年後半での回復予測もあり、お客様の生産改善により一層貢献させていただけるよう、ものづくりの基盤強化に取り組んでまいります。



## 子会社の概況

### パラグアイ子会社新設

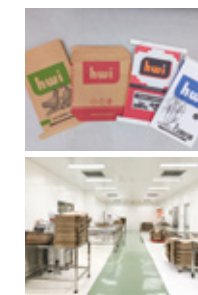
コンクリート補強繊維「バルチップ」の製造拠点として、南米パラグアイ共和国に子会社「Hagihara Industries Yguazu SRL」を新設しました。

2023年6月稼働開始予定で、当初は土間用途での需要が拡大しているブラジル向けに製品を供給します。将来的には周辺国にも供給先を拡大する予定で、旺盛な需要に対応するとともに、物流の混乱が生じている南米向けの安定供給を図ります。



### FSSC22000を取得

インドネシアでは、人口増加に伴う食品市場の成長が予想されています。現地子会社「PT.HAGIHARA WESTJAVA INDUSTRIES」にて食品安全認証のFSSC22000を取得しました。クリーンルームを新設し、安全性の高い食品用紙袋を提供しています。食品分野の拡大に努め、5年後には現在の1.5倍の生産量を目指します。



### クリーンルーム拡張

東洋平成ポリマー株式会社では、クリーンルーム工場を拡張し、設備増強を行いました。クリーン環境下(クラス10万)での医療品や食品用の高機能フィルムの増産を図ります。





# Sustainability

2022年4月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行される等、プラスチック製品の環境配慮が求められています。

萩原工業は、プラスチック製品メーカーとして、当社主力製品であるブルーシートを持続可能な環境配慮型製品に変えていく取り組みを率先して進めています。

## 水平リサイクルプロジェクト

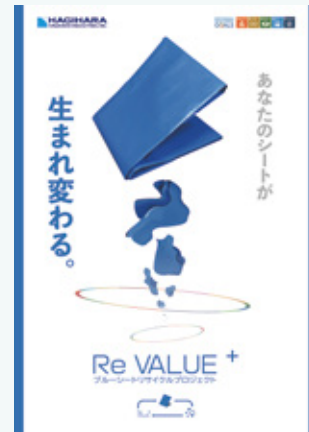
# Re VALUE +

「Re VALUE+(リバリュープラス)」とは、萩原工業とJ&T環境株式会社が提携して取り組む、使用済みブルーシートを回収し新たなブルーシートを製造する水平リサイクルプロジェクトです。

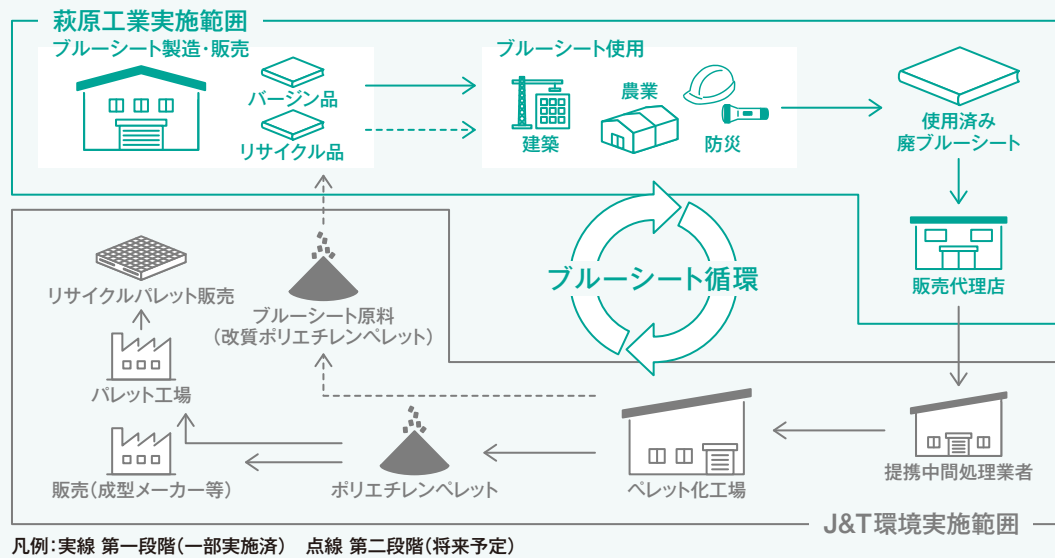
現在、廃ブルーシートの多くが焼却処分されており、一部マテリアルリサイクルされている再生ペレットについても、再生ペレットの品質の問題からブルーシートの原料とはならず、カスケードリサイクルされています。

そのような中、SDGsの実現や、廃プラスチックによる環境汚染問題の解決へのアプローチとして、カスケードリサイクルを超えた水平リサイクルへの関心が、昨今急速に高まっています。

国産ブルーシート製造大手の萩原工業と、廃棄物の回収ネットワークとリサイクル技術を有するJ&T環境は、ブルーシートの循環スキームを段階的に構築し、廃ブルーシート年間5000トン「Re VALUE+」の対象として回収、リサイクルすることを目標としています。



## ブルーシート水平リサイクル「Re VALUE+」スキーム



## 建築現場における事例

建築現場で使用されるブルーシートのほとんどが、一度使用された後に廃棄されています。そのような背景から、住宅メーカーのライフデザイン・カバヤ株式会社と「ブルーシート水平リサイクルに関する協定書」を締結しました。ライフデザイン・カバヤが使用した当社製ブルーシートを回収し、それを用いて製造したリサイクルブルーシートを再度ライフデザイン・カバヤが使用するという循環システムとなります。2022年2月、リサイクルブルーシートの第一弾が岡山県内の建築現場で使用されました。住宅メーカーから発生したブルーシートが水平リサイクルによって同一住宅メーカーの現場で使用されるという循環システムは日本初の試みとなりました。

現時点では、少量の再生原料の使用に留まっておりますが、関連技術開発を促進させ、将来的には2022年4月より施行された『プラスチック資源循環促進法』に則した製品開発を目指しています。



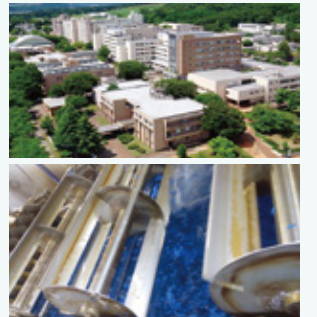
リサイクルブルーシート第一弾が使用された様子

## 環境配慮型プロダクトへの刷新

### プラスチック製品リサイクルに向けた廃材洗浄技術の開発

国立大学法人長岡技術科学大学、同大学発ベンチャー企業の株式会社バンタレイ及びJ&T環境株式会社と、「プラスチック製品リサイクルに向けた廃材洗浄技術の開発」に関する共同研究に取り組んでいます。

本共同研究の目的は、プラスチック製品のリサイクルに必要とされる、使用済みプラスチック製品を回収・粉碎した後のプラスチック片を効果的に洗浄するための技術開発です。長岡技術科学大学とバンタレイは、洗浄装置に必要な要素技術や基本コンセプトの立案を行い、萩原工業とJ&T環境は、洗浄装置の洗浄効果を定量的に評価するための基準/規格を構築し、萩原工業は洗浄装置の試験機から生産機の製造を行います。



洗浄試験の様子

## Tarpee ターピー エコフレンドシート

2022年7月、当社ブルーシートの新たな旗艦製品「ターピー エコフレンドシート」の販売を開始しました。「ターピー エコフレンドシート」は、原料の60%以上に再生プラスチックを使用しており、さらに、ポリエチレン単一素材のモノマテリアル製品にすることでリサイクルを容易にした、環境配慮型のエコマーク認定品のブルーシートです。

再生原料  
**60%**  
以上使用

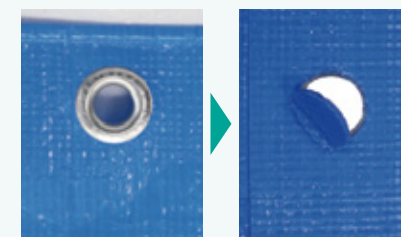
環境保全の証としてエコマークを取得しました。  
(認定番号:22128002)



廃棄プラスチックを再生してペレット化した原料



## ターピー エコフレンドシートの特徴



アルミハトメからジョイントホールに

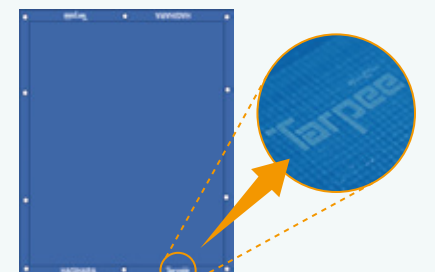
### ①モノマテリアル(単一素材)製品

周囲PPロープやアルミハトメの無い、ポリエチレン単一素材品です。単一素材にすることで、リサイクルが容易となります。一般的なアルミハトメに代わる当社特許技術「ジョイントホール」は、アルミハトメと同等以上の強度を誇ります。



### ②災害時にも有効な耐候性約2年

従来品の2倍となる約2年相当の耐候性を保有しています(当社試験に基づき試算)。長期使用が可能になり、災害時の屋根への掛け替え回数が減ることで、環境負荷の軽減や作業負担・コストの低減につながります。



### ③作業性の高さ

「一度揚げないとシートの長短がわからない」という声を受け、シートの短辺に社名・ブランド名のレーザー刻印を施しました。これにより畳んだ状態からでもシートの長短が分かり、スムーズな施工が行えます。



# Environment

## 萩原工業グループの環境経営

萩原工業グループは、環境に配慮した製品・技術・サービス・企業活動を通じ、社会の持続可能な発展に貢献するべく、「脱炭素」、「循環経済」、「分散・自然共生」という多角的な切り口によるアプローチでSDGsにも取り組んでまいります。

<p><b>1</b></p> <p>2050年カーボンニュートラルの実現、新たな2030年度の削減目標の達成に向けて、環境負荷を軽減し、脱炭素化を目指します。</p>	<p><b>2</b></p> <p>プラスチック資源循環を促進し、「循環経済(サーキュラーエコノミー)」への移行の促進を目指します。</p>	<p><b>3</b></p> <p>自然共生、レジリエントな社会・地域づくりに向けて、気候変動対策と防災・減災対策の効果的な連携を目指します。</p>
--	---	--

## 環境経営の取り組み

私たちは、環境経営を推進するサステナブル企業として、1.気候変動への対応、2.循環経済への対応、3.環境に配慮した製品の開発、4.防災・減災対策にメーカー(つくる責任)として取り組みます。

**環境経営 目標 2025**  
(2023年10月期から2025年10月期までの3か年中期経営計画の期間中)

<div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>気候変動・循環経済への対応及び環境配慮の高い製品の開発</p> </div> <p>水平リサイクルシステム「Re VALUE+」再生ブルーシートのリサイクル率 <b>25%以上</b></p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">エコマーク認定の <b>25%</b> を目指す</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: 0.8em;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">12 つくる責任 つかう責任</div> <div style="background-color: #4db6ac; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div> <div style="background-color: #4db6ac; padding: 2px;">14 海の豊かさを守ろう</div> <div style="background-color: #4db6ac; padding: 2px;">15 陸の豊かさを守ろう</div> </div>	<div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>気候変動・循環経済への対応及び環境配慮の高い製品の開発</p> </div> <p>エコマーク認定商品・エコマーク認定商品の販売量 <b>300%増(4倍)以上</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: 0.8em;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">12 つくる責任 つかう責任</div> <div style="background-color: #4db6ac; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div> <div style="background-color: #4db6ac; padding: 2px;">14 海の豊かさを守ろう</div> <div style="background-color: #4db6ac; padding: 2px;">15 陸の豊かさを守ろう</div> </div>
<div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>循環経済への対応及び環境配慮の高い製品の開発</p> </div> <p>高品位樹脂再生プロセス「GXライン」再生ペレット製造装置の販売額 <b>30%増以上</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: 0.8em;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">12 つくる責任 つかう責任</div> <div style="background-color: #4db6ac; padding: 2px;">13 気候変動に具体的な対策を</div> <div style="background-color: #4db6ac; padding: 2px;">14 海の豊かさを守ろう</div> <div style="background-color: #4db6ac; padding: 2px;">15 陸の豊かさを守ろう</div> </div>	<div style="background-color: #e0f0e0; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>気候変動への対応と防災・減災対策</p> </div> <p>地方公共団体・建設業協会等との防災協定の締結件数 <b>16件 ▶ 26件(+10件)</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: 0.8em;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">11 住み続けられるまちづくりを</div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 2px;">12 つくる責任 つかう責任</div> <div style="background-color: #4db6ac; padding: 2px;">17 パートナリシップで目標を達成しよう</div> </div>

## 環境負荷の削減



**水平リサイクル「Re VALUE+」**  
使用済みブルーシートを回収し新たなブルーシートを製造する水平リサイクル「Re VALUE+」の実現に向けて取り組んでいます。



**ターピー エコフレンドシート**  
再生原料を60%以上使用した、エコマーク認定品です。周囲PPロープなし、アルミハトメなしのポリエチレン単一素材品で、リサイクルが容易です。

## 環境に配慮した製品の開発



**エコマーク認定品の拡充**  
再生原料を60%以上使用したエコマーク認定品の拡充を進めています。持続可能な社会の実現のため、環境負荷軽減を意識した製品開発に努めています。



**再生ペレット製造装置**  
洗浄や調質、造粒等、ニーズに合わせてオーダーメイドでラインを設計します。高品質な再生ペレットにより、良質な再資源化を実現し、循環型社会に貢献します。

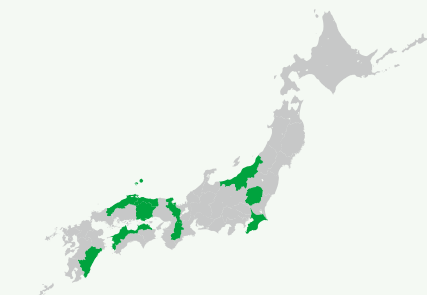


**バルチップ**  
鉄筋の代わりにバルチップを使用することで、CO<sub>2</sub>の排出量を78%も削減することが可能です。(製造と輸送時にかかるCO<sub>2</sub>排出量をISO14025に基づき計算)

## ブルーシートメーカーの責任



**高耐候・高品質**  
当社製ブルーシートは、海外製に比べ耐候性に優れており、長期間の使用が可能です。自然災害が多い日本で、防災・減災用途としても活躍しています。



**災害協定**  
災害時に必要な物資の供給を迅速かつ円滑に行えるよう、1府9県6市町の16自治体と災害時におけるブルーシート・土のう袋等の供給に関する協定を締結しています。



**福山通運との連携**  
支援物資(ブルーシート、土のう袋等)の輸送協力体制を強化するため、福山通運株式会社と災害時の相互協力に関する協定を締結しています。



# Social

萩原工業グループでは企業価値を高める活動を推進しています。

## 地域・子どもの支援



### 大学との提携

SDGs達成に資するテーマでの共同研究の推進、学生や研究者、社員の交流、人材育成の相互支援等を目的としたSDGs先進大学との提携や、ファイバー関連産学を支える技術の発展に資するための奨学金制度(給付型)の創設を行いました。



### BRIDGE OKAYAMA

西日本豪雨災害の復興支援として、被災地で使用されたブルーシートを回収、トートバッグに再利用し、売上を復興に役立てる活動に参加しました。  
【寄付金総額】  
倉敷市:1,067,523円、総社市:1,067,524円



### BRIDGE SETOUCHI

BRIDGE OKAYAMAの活動終了後、当社の製造工程でロスになるブルーシートをトートバッグに再利用し、売上の30%を災害復興、防災・減災の基金として役立てる活動を開始しました。



### 工場見学の受け入れ

当社は工場見学の受け入れを積極的に行っています。企業理念・安全・人材育成等について、異なる業種・立場の方々と意見交換を行い、新たな価値を共に創出しています。



### ボランティア団体の支援

アートを通して子どもたちに想像力を高めたいとの思いから、倉敷市の2ボランティア団体「倉敷市特別支援学級親の会」と「仲間のいる不登校の親の会ふざば倉敷」に大原美術館の入館券を贈呈しました。



### NPO法人の支援

笠岡市のNPO法人「海の校舎大島東小」が実施する地域学び合い事業を支援しています。本事業を通して、学校では学べないものづくり体験の場を地元の子どもたちに提供しています。

## 働き方改革応援製品



工事現場で設置される防音シートの開発を重ね、従来品より70%軽量化に成功しました。作業員の負担軽減に繋がっています。



透明性(視認性)・採光性・軽量性に優れたメッシュシート。足場内が明るく、工事作業環境の改善や事故防止の安全対策に役立っています。



建設業界内の人材不足が叫ばれる中、バルチックを使用することで鉄筋が不要になり、建築期間の短縮・労力を削減します。

## 働きやすい職場づくり

### 働き方改革を推進



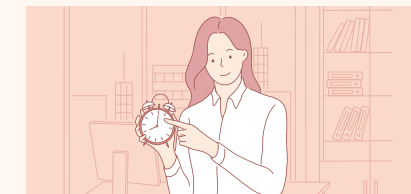
#### なごみ保育園

社員が安心して働ける環境を構築するため、0歳(3か月)~5歳までを対象とした12名定員の小規模保育園を、2018年6月に開園しました。



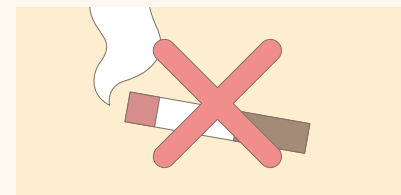
#### 時間有給

1時間単位で有給休暇を取得できる制度を導入しました。子どもや家族の予定に合わせて柔軟に対応することが可能となり、よりワーク・ライフ・バランスがとりやすい環境になりました。



#### アーリータイム

就業時間を1時間前倒しするアーリータイム(時差出勤)を導入しました。日中の時間をより有効に活用することができ、社員それぞれの働き方の多様性を尊重します。



#### 禁煙対策

2020年11月1日より、健康増進法の改正や社員の健康保持増進の観点から、敷地内の全面禁煙や就業時間中の禁煙等を実施しています。



#### 定年延長

シニア社員のモチベーション向上と、若手や中堅社員が安心して長く働けるよう、定年年齢を60歳から65歳に引き上げました。給与は60歳時点の水準を維持します。



#### ヘルシーメニュー

社員が健康に働けるよう、栄養バランスや調理方法にこだわったヘルシーな食堂メニューを提供しています。カロリーを表示することで、社員への健康に対する意識づけも図っています。

## ダイバーシティ



#### 女性の社外取締役

創業家以外から初の女性取締役として2019年に就任しました。視点の多様性が広がり、審議の質の向上に繋がっています。



#### 女性入社率の増加(新卒)

約10%だった女性入社率を過去5年で約30%まで増加させました。女性が活躍できる環境づくりを進めています。



#### 障がい者雇用

障がいがある社員でも、最大限に能力を発揮して働くことのできる職場環境を目指しています。(障がい者雇用率:2.70%)



#### 外国籍人材雇用

外国籍の社員も正社員として採用し、グローバル化に対応した人材育成を進めています。

## 社外からの認定・評価



「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」経済産業大臣賞受賞



「健康経営優良法人2022」認定



「倉敷市男女共同参画推進事業所」認定



「おかやま子育て応援宣言企業」岡山県知事賞受賞



# Governance

## 役員一覧

(2023年1月25日現在)



代表取締役社長 社長執行役員  
浅野 和志



取締役 執行役員  
犬飼 正樹



取締役 執行役員  
藤田 学



取締役 執行役員  
飯山 辰彦



取締役 執行役員  
吉田 淳一



社外取締役  
大原 あかね



社外取締役  
西田 陽介



監査役  
金光 利文



社外監査役  
石井 辰彦

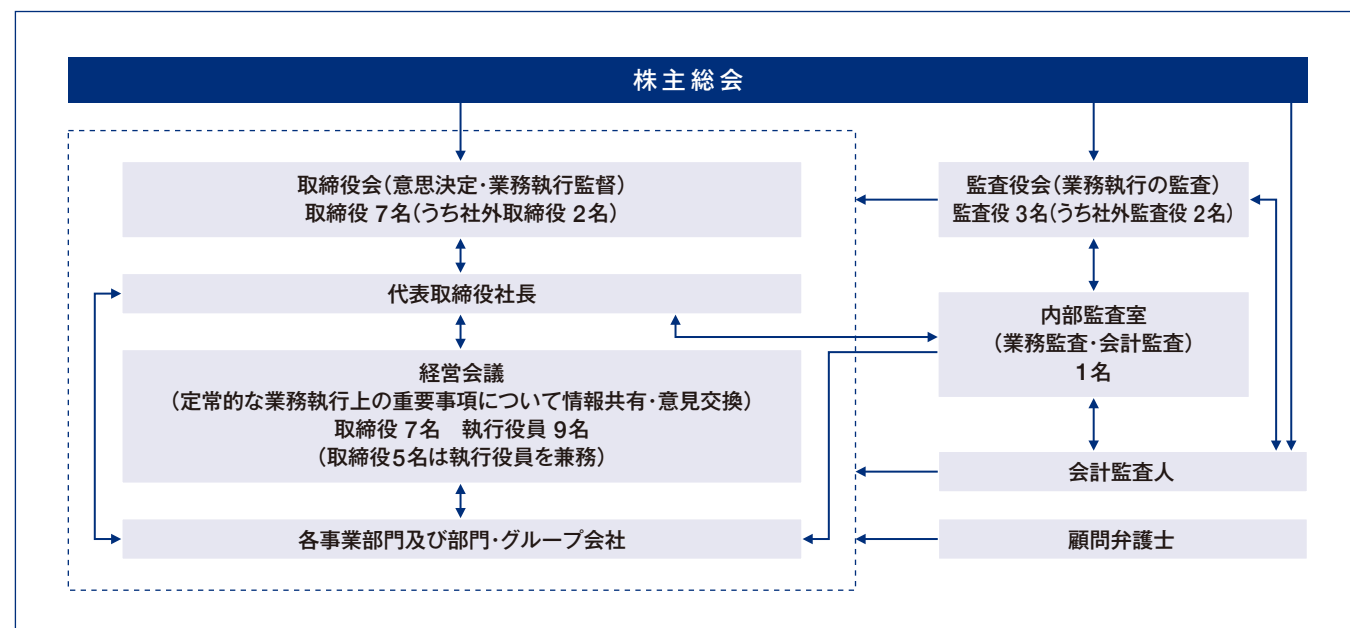


社外監査役  
三宅 孝治

### 執行役員

柴田 幸久 萩原 佳明 平野 泰弘 笹木 真尚

## コーポレートガバナンス体制 (2023年1月25日現在)



	取締役会	監査役会	経営会議
目的・内容	・業務執行の決定 ・取締役の職務の執行の監督	・監査方針の決定 ・会社業務・財産に関する調査方法等の決定	・定期的な業務執行上の重要事項について情報共有・意見交換
メンバー	取締役、監査役及び執行役員 ・社外取締役・監査役の出席率(2021年11月～2022年10月) 中原裕二(100%)、2023年1月退任)、大原あかね(100%)、石井辰彦(100%)、三宅孝治(100%)	監査役 ・社外監査役の出席率(2021年11月～2022年10月) 石井辰彦(100%)、三宅孝治(100%)	役員及び課長以上の管理職
開催頻度	定例は毎月1回(加えて必要に応じ随時)	定例は毎月1回(加えて必要に応じ随時)	3、6、9、12月に1回ずつ

## 内部統制システム

当社は、取締役会において「会社の業務の適正を確保するための体制」整備の基本方針を決定し、効率的で適正な業務体制による運営を目指しております。なお、より効率的で充実した体制の構築のため、毎年1回、基本方針の運用状況等を確認のうえ、見直しの取締役会決議を行っております。

## 内部通報制度

通報先	社長、取締役会、監査役会、事業支援部門 総務部総務課又は指定弁護士事務所
利用できる対象者	当社及び子会社における正社員、準社員、嘱託社員、パート社員、派遣社員、通報の日から1年以内に社員であった者及び役員
通報件数	2020年11月～2021年10月は1件 2021年11月～2022年10月は0件

当社では、健全な企業風土の醸成と法令及び社内諸規程遵守を徹底するため、内部通報制度を設けております。通報先として社内の担当部署等に加え、社外の弁護士事務所を指定するとともに、通報者の保護及び報復行為の禁止を規程で定めることにより、適切かつ有効な制度運用を図っております。



## MESSAGE 事業支援部門長 吉田 淳一

### 変化の激しい経営環境の中で、事業部門の挑戦を強力にサポート

新型コロナウイルスの流行や国際情勢の悪化に端を発した物流の混乱、原材料・エネルギーの価格高騰等、暗闇の中を全力疾走しているような経営環境が続いております。このような中でも委縮することなく、国内外での新工場の建設、技術譲受による新規分野進出、水平リサイクルの推進等を進めており、当部門では、このような各事業部門の果敢な挑戦を強力にサポートしてまいります。

## 行動規範

1. 法令遵守 (その行動は、法令・規程に触れないだろうか?)
2. 顧客満足 (その行動は、お客様を満足させているだろうか?)
3. 透明な関係 (その行動は、誠実だろうか?)
4. 働きやすい環境 (その行動は、働きにくい環境にしていないだろうか?)
5. 環境への配慮 (その行動は、地球環境を守っているだろうか?)
6. 国や地域との協調 (その行動は、傲慢になっていないだろうか?)
7. 反社会的勢力および団体への対応 (その行動は、正しくないと知りながらやっていないだろうか?)





相談役

萩原 邦章

Kuniaki HAGIHARA

社外取締役

大原 あかね

Akane OHARA

## 持続可能な成長を支える経営基盤

31年の長きにわたり代表取締役社長を務めた後、会長として社を支え、2023年1月に相談役となった萩原邦章と、日本初の私立西洋美術館として知られる大原美術館の理事長であり、2019年に当社の社外取締役に就任した大原あかね。独自開発のフラットヤーン技術とその製造機械開発から生まれたエンジニアリング事業で躍進する、萩原工業のこれらについて二人に語り合っていました。

### 新しい価値を創出する経営

～企業そのものも、経営も、ものづくりも、すべてアート～

**大原** 社外取締役として関わるなかで、萩原工業グループのみなさんはものづくりに真摯な態度で向き合い、自分たちが作り出す製品の価値がどう世の中に貢献しているかを理解して、日々、業務に就いていらっしゃると思っています。素晴らしいのは、まだその上、その先があるのではないかとという向上心を持って、外の意見にも耳を傾けながら、新たなことに挑まれ続けていること。その原動力となっているのは何なのでしょう。

**萩原** それは、創業者の「おもしろえ、直ぐやってみよう」という口癖です。「面白い、直ぐやってみよう」という意味の岡山弁で、い

つか会社全体の行動指針となり、失敗を恐れず、積極的な努力を重ねるといふ企業文化を育んできました。企業はそうした大事なものを守りつつ変革していくことが重要で、萩原工業も中核技術を大切にしながらクリエイティビティ（創造力）をどう高めていくかが肝要だと思います。

**大原** アートの歴史がある面で、先人たちが成したことを自分の中に取り込み、新たな表現を世に問うてきたように、過去の人たちが培ってきた技術を身に付けたのちに、新たな技術でイノベーションを起こすものづくりは、まさにアートだと私は感じています。

**萩原** 私は企業経営も企業そのものもアートだと思っています。かつてエクセレントカンパニー等と形容する時代もありましたが、ビューティフルカンパニーという言葉があってもいいのではないのでしょうか。どんな花を咲かせる会社にするのかという単純な美しさではなく、どうアーティスティック（芸術性豊か）な会社にするか。たとえば、社員一人ひとりの感性を磨き、いろんなカテゴリーでクリエイティビティの高い人間に育てたら、その会社はビューティフルと言われるような素晴らしい会社になると思いますね。

**大原** 私は萩原工業のみなさんに、二つの美意識が非常に重要だとよくお話ししています。一つは自分を高めようとする美意識で、もう一つは自分の生きる姿勢としての美意識。たとえば、自分自身や自分のチームの仕事をよりよくするために何を磨いていくのかに意識を向けることと、そして、自分の道徳観や信念、社としてのミッションがブレていないかに敏感になるという美意識は、どちらも非常に重要だと思っているからです。相談役は社員の感性を磨くことを重視されていますが、そのためにご自身が取り組まれてきたことを教えてください。

**萩原** まさに、その一つが大原さんを社外取締役に選んだこと。社員一人ひとりがこんな素晴らしい人物が選ばれた真意を考え、刺激を受け、深い意味で感性を高めてほしいと考えたのです。それと、現役時代には「萩原工業をぶっ潰せ」ってよく言ってたんですよ。たとえば、新商品の開発や新しいお客さまの獲得、成長が認められる国への進出等、萩原工業がライバルからされたら困ることを、イノベーター（変革者）となって先に先にやっていくことこそが、クリエイティビティにつながると考えてきましたから。

**大原** 萩原工業が相談役の考えるビューティフルカンパニーになっていくためには、何が必要でしょう。

**萩原** 私は31歳の就任から31年間、社長を務めました。その間、生きているのではなく、生かされているという感謝の気持ちを常に持って、厳しい状況の時こそポジティブシンキング（肯定主義）で乗り切ってきました。35歳の時に社員の一人を亡くしてからは、社員第一主義を貫いてきました。47年の会社人生を振り返ると、納税と雇用の創出、お客さまへのベネフィット（利便性）の提供を通して、いかに世のため人のために役立つかが、私自身のフィロソフィーだったと思います。みんなにそれを伝えるために話をしたり、きっかけとなるような本を紹介したりしましたが、結局は教えられることではないとわかりました。「気づきに勝る学習なし」。だからこそ会社は、新たな事業を展開するとか海外に新工場を作る等、気づきのきっかけとなるようなことをアグレッシブに行う必要がある。そうして、社員がそれぞれの経験のなかで新たな領域を見出し、自分の人間性を深め、ビューティフルな人生を広げることが、ビューティフルカンパニーの実現につながると思っています。ただし、今後を担うのは浅野社長をはじめとする次世代。老害心ながらの過去完了の話は老害になりますから、あくまでも相談役として、激励、激励に努めたいと思っています。

**大原** ご自身が長く守り育ててきた組織を後進に委ねるのは次の人たちへの信頼感がないとできないことですし、何が大事かわかっていないといつまでも口出ししたくってしまうもの。今のお話からも、相談役が長きにわたってトップを務められてきたことが、萩原工業の成長の要因のひとつだと実感できます。

### グローバル展開について

～現地の人々に安定してベネフィットを提供するために～

**大原** ここ数年、新型コロナウイルス感染症やロシアのウクライナ侵攻、円安等大きな出来事が起こっていますが、グローバル展開への影響をどのようにお考えですか。

**萩原** 「マネジメントの父」ともいわれるピーター・F・ドラッカーは、「企業はいかに環境の変化に対応するかが大事」と言っていますけ

ど、私を長く支えてくれた番頭さんからは「環境は常に変わるから、強みを生かして先に変われ」と言われていました。常に変わり続けていけば世の中がコロナ禍になろうが、インフレになろうが、関係ないんですよ。たとえば、為替変動の影響を受けない強い商品を生み出す等、自らが先に先に変われればいだけの話なのです。

**大原** 確かに、経営者は企業としてのリスクを認識しているべきだし、もし認識できていなかったとしたらそもそもその判断が甘かったということですよ。たとえば、円高で儲かって利益が大きくなったとしても、円安に振れたときにどうなるのかを想定して対策を立てておけばいいのだと私も思います。

**萩原** 少し話は変わりますが、人事異動をした組織は、いつごろから陳腐化すると思いますか。私は、番頭さんから「人事異動を発表したその時から組織は腐り始める」と教えられました。だからこそ、あらゆる面で「常にインプルーブ（改善）しなさい、常に変化しなさい」





い]とも教わりました。萩原工業が生かすべき強みは、ものづくりを通じてお客さまにベネフィットを提供できること。海外の人々に安定的にそれを提供するためには、現地生産、現地販売が非常に大事ですから、ベネフィットが必要とされている地で、リスクテイキングしながら、ステップバイステップで事業展開しているのです。つまり、グローバル展開をするためにパラグアイやアメリカ等に進出しているわけではなく、常に変化し続ける結果のひとつとしてグローバル展開があるということです。

## サステナビリティについて

### ～100年後の人々を思い、さまざまな取り組みを推進～

**大原** 2022年4月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行される等、プラスチック製品には環境配慮をはじめとするサステナビリティが求められています。具体的にどのような取り組みをされているのでしょうか。

**萩原** 我々は世のため人のために役立つ会社であろうという経営理念から、サステナビリティという言葉が知られるようになる前から、環境への配慮にも真面目に取り組んできました。近年では、これまで焼却処分されることが多かった廃ブルーシートから新たなブルーシートを製造するという水平リサイクル「Re VALUE+」の推進や、再生プラスチックを60%以上使用してブルーシートや土のうを製造し、持続可能な環境配慮型プロダクトに刷新する等の新たな取り組みを進めています。ただ、どれも経済性が伴わないと消費者に

**大原** これまで見えなかったお客さまの幸福をも満たせる可能性を考えると、世界に展開することはとても重要なことだと思いますし、そもそもの欲求として、外に出たいと思いますよね。

**萩原** 日本という島国は約260年間の江戸時代が終わって、開国した途端にあれだけの異文化を吸収して、急激に成長しました。人口減少時代となってからは、外国人労働者もずいぶん増えています。島国根性というけれど、実は日本人にはインターナショナルで挑戦し続ける性質も持っているのだから、ビジネスも地球をベースに考えていく必要があると思いますね。

受け入れてもらえないので、現状はなかなか難しい。今後は、そのニーズに応えられるものを作ることが課題となっています。

**大原** 創業から60年間、萩原工業はプラスチック製品を提供することで世の中に貢献してきたと確信しています。昨今は、マイクロプラスチックによる海洋汚染等が取り沙汰されていますが、現場でものづくりを行うみなさんが100年後の人々に「萩原工業さんありがとう」と言ってもらえるよう、サステナビリティを念頭に活動しているのは間違いのないと思っています。

**萩原** ものづくりを通じてサステナビリティを考え、それを事業に生かすことで、我々が生み出すベネフィットは、人々に受け入れられるし、結果的に事業継続につながっていくと思います。ところで、プラスチックは石油から作られますが、その生産に使われる原油の割合をご存知ですか。約4%なんです。その4%を大切に使い、サステナビリティを高めるためには、製造過程等でロスを出さないゼロエミッション（廃棄物を出さない）にどう取り組むかだけでなく、お客さまが使った後のものをどう処理していくかについても考えなくてはなりません。プラスチック事業者としての責任と義務を痛感する一方で、プラスチックゴミを不法に捨てないとか、きちんと分別して捨てるといった意識が定着することを切に願っています。

かすかが求められています。そういう意味でも、多様なメンバーが力を合わせながらものづくりをすることが必要だと思います。これまでダイバーシティに関するどのような取り組みをされてきましたか。

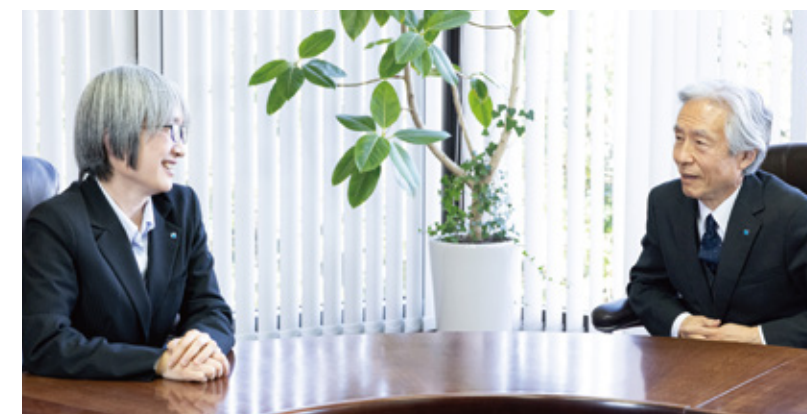
**萩原** 男女同一賃金はずいぶん早くから取り組んできました。

2018年の企業主導型保育園開設、障害者の雇用や外国籍の人の正社員採用、女性入社率の増加等も図っていますが、ダイバーシティへの取り組みはまだこれからだと思っています。

**大原** 2018年といえば、従業員やその家族、取引先といった人を大切にすることを表彰する「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」の最高賞を受賞しましたよね。確か、全社員の誕生日にトップのメッセージカードを添えたバームクーヘンをプレゼントしていることが、受賞理由の一つだったのでは。

**萩原** そうです。この会社に長く勤めてほしいという意味を込めて、幾層もの年輪を持つバームクーヘンを贈っています。バースデイカードには、あなたのお陰で今のこのテーマがあるとか、あなたの頑張りでこんないい織物ができるようになったとか、その人に向けたメッセージを添えるようにしています。職場環境を整えるのも大切ですが、いかに社員の一人ひとりに向き合っ、あなたの存在に感謝していますということも伝えることも大事です。トップや上司がその発信を工夫するのもクリエイティブだと思っています。ダイバーシティのテーマに合っているかどうかかわからないけど、仕事を通じて一人ひとりの存在を認め、働き甲斐や生き甲斐を提供することで、社員みんなが成長してくれると信じています。

**大原** 一人ひとりの存在を大切にすることはダイバーシティにつながっていると思います。一方で、視覚に障害のある方や英語以外の言語を話す方をはじめとする多様な人材の雇用に向けての歩みは、まだ始まったばかりではないでしょうか。たとえば、身体的な理由で



週3日しか出勤できない人が働ける職場は、全ての社員が将来病気になっても働き続けられるということなので、社員は安心感を得られます。つまり、いろいろな人がいるダイバーシティな会社は、社員が働きやすい会社ともいえます。そうなることで、今まで我々が雇用できるとしていなかった層の人を採用できるようにもなります。萩原工業に入ったら、どんな立場にある社員も自分の能力を120%発揮できる、そんな会社になっていけるように、力を使っていきたいと考えています。

**萩原** かつて、番頭さんから「社員が一生を終える時に、『もっといい会社は一杯あったかもわからんけど、自分自身がそれなりに成長できたし、家族も養えた。萩原工業に勤めて良かったなあー』と思える会社になってくれよ」と言われました。この言葉がすべてを表していると思いますし、それを実現することは経営者の責任です。

## 萩原工業に望むこと

### ～生かされていることを忘れず、アグレッシブに～

**大原** 相談役は「萩原工業をぶっ潰せ」と幾度も言われてきましたが、その真意とは。

**萩原** 延長線上じゃなくて、非連続で常に俯瞰して見るとか、逆転の発想、発想を変えろということ。それもこれも気づきなさいよ、成長するのはあなた自身ですよという意味なんです。さっき、会社は社員に働き甲斐や生き甲斐を提供しなくちゃならない話をしましたが、それも単にあてがうというとは違う。気づきに勝る学習なしですから、自分で能動的に見出さないといけないわけです。失敗を恐れることなく、そういうアグレッシブな企業文化を受け継いでほしいと思っています。

**大原** 私の場合は求められて就いている職なので、何より会社や浅野社長が私に望まれていることを精一杯やるのが務めだと思っています。私が一人で何かにチャレンジしていくのではなく、社員のみなさんがチャレンジしやすい社風を維持し続けられるよう貢献していきたいですね。チャレンジすることは楽しいことですし、たとえ失敗したとしてもそれを成功に変える方法はいくつもあるので、一緒に歩んでいくことで、萩原工業の一員となれた喜びを私

自身も感じられるのではないかと考えています。

**萩原** チャレンジといえば、あの会社を追い抜こうとか、あの会社よりシェアを高めようとか、常に目標を定めて、私自身がアグレッシブに、負けるもんかやってきました。そうするなか、30代半ばで会社は「世間様からの預かりもの」、つまり公器だとわかったんです。規模の大小や株式の公開非公開にかかわらず、企業はお客さまにサービスやベネフィットを提供する使命を与えられ、生かされているのだ、と。後輩たちには、それを忘れないでほしいですね。

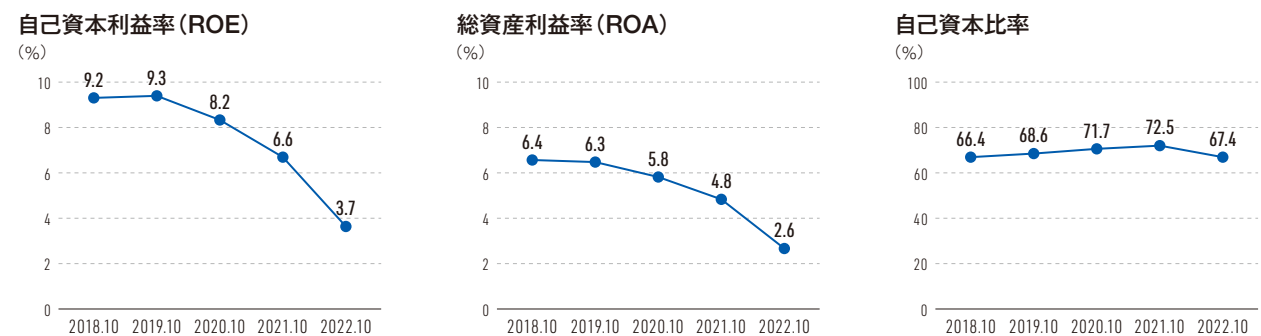
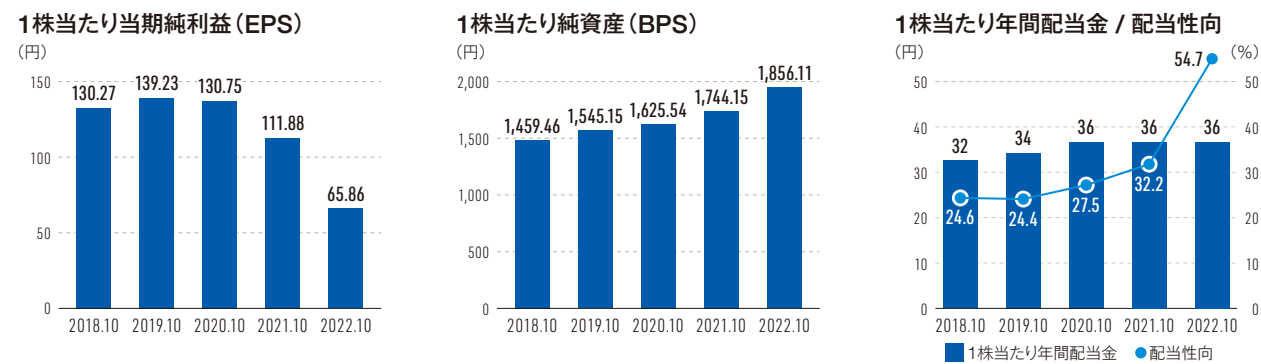
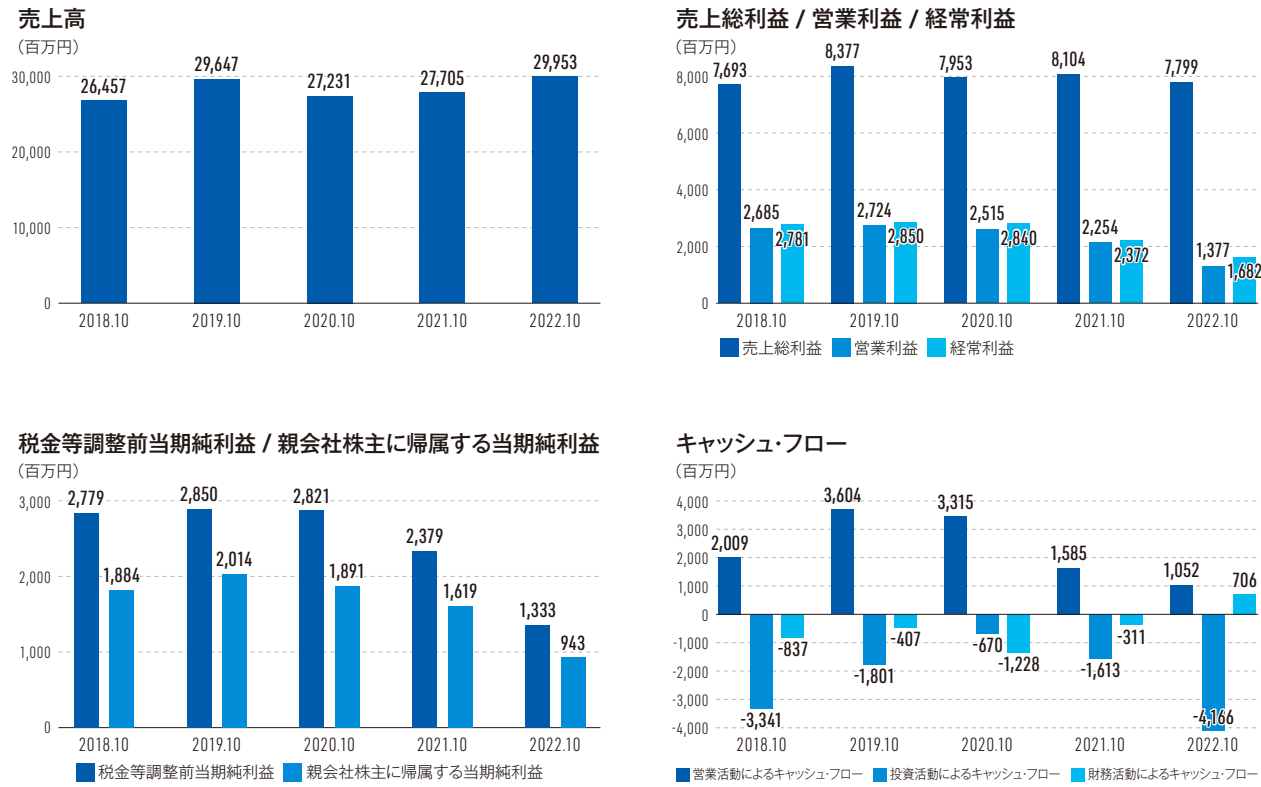
**大原** これから考えると、先ほど少し申し上げましたように、ダイバーシティについてはまだまだ走り始めたという状況ですし、ほかにもなすべきことはたくさんあります。焦ることなく、ひとつひとつクリアして、社員のみなさんがリーディングカンパニーであると誇れる会社になっていきたいと思っています。その時の働きがいとは格別でしょうから、ぜひ一緒に目指したいと思っています。

**萩原** 最後に、方法は人それぞれでしょうが、感性を高めて、一度しかない人生をより豊かなものにしてほしい。それが萩原工業のさらなる成長につながるかと確信しています。

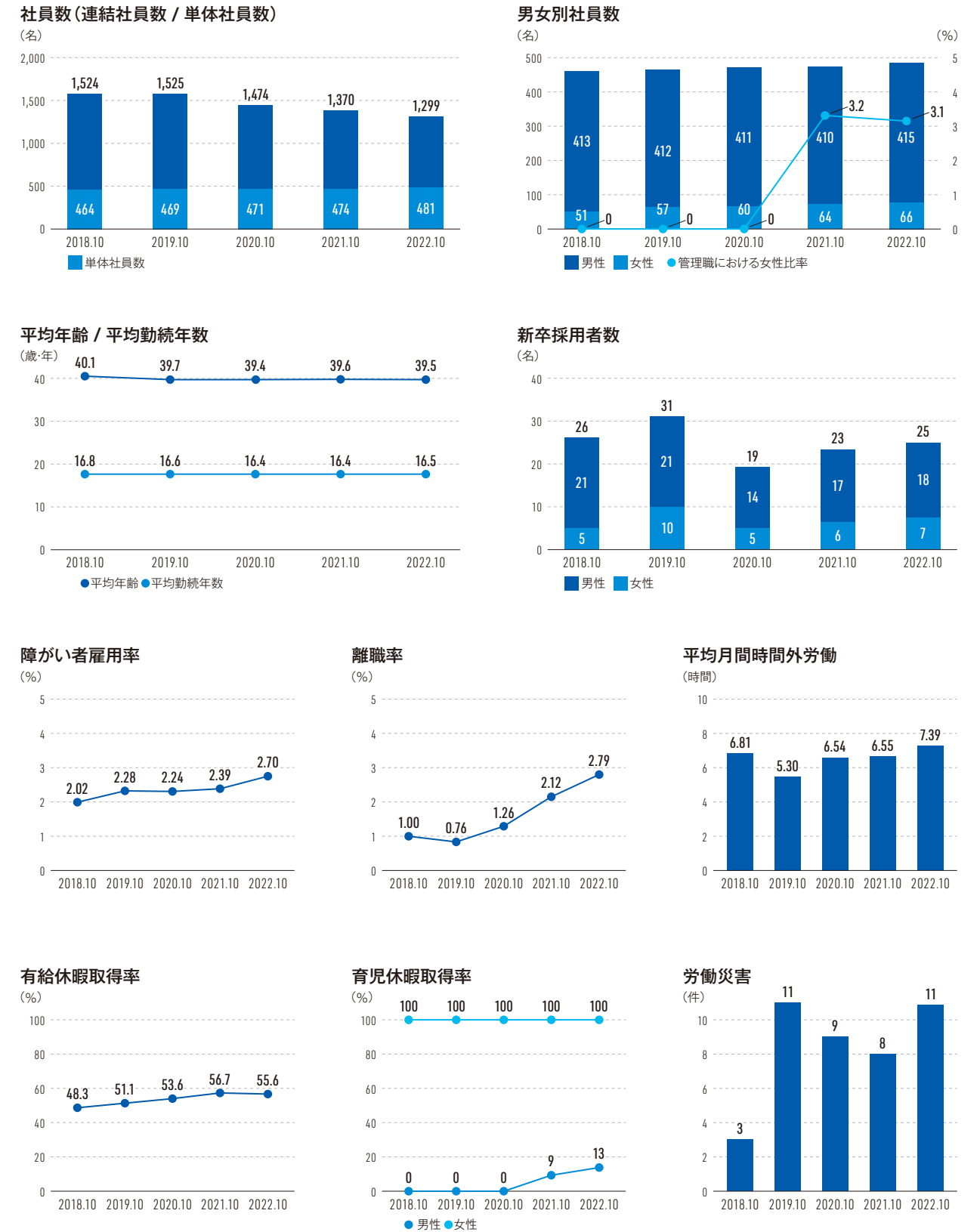


## 5カ年財務・非財務サマリー

### 財務



### 非財務





## 国内・海外拠点一覧



### 萩原工業 子会社・海外拠点

- |          |   |                                      |
|----------|---|--------------------------------------|
| 1 本社・工場  | 9 日本ファブエルト株式会社  | 19 BarChip Inc. [バルチップ株式会社] (岡山県倉敷市) |
| 2 里庄工場   | 10 東洋平成ポリマー株式会社 本社・工場                                 | 20 BarChip Asia (シンガポール)             |
| 3 賀陽工場   | 11 東洋平成ポリマー株式会社 福島工場                                  | 21 BarChip Australia (オーストラリア/ブリスベン) |
| 4 物流センター | 12 東洋平成ポリマー株式会社 高知工場                                  | 22 BarChip EMEA (アイルランド/ダブリン)        |
| 5 東京支店   | 13 東洋平成ポリマー株式会社 東京営業所                                 | 23 BarChip Canada (カナダ/ケベック)         |
| 6 大阪営業所  | 14 東洋平成ポリマー株式会社 大阪営業所                                 | 24 BarChip USA (アメリカ/ノースキャロライナ)      |
| 7 東海オフィス | 15 萩華機械技術(上海)有限公司 (中国/上海市)                            | 25 BarChip Mexico (メキシコ/メキシコシティ)     |
| 8 札幌営業所  | 16 PT.HAGIHARA WESTJAVA INDUSTRIES (インドネシア/ジャカルタ)     | 26 BarChip Peru (ペルー/リマ)             |
|          | 17 Hagihara Industries (Thailand) Co.,Ltd. (タイ/バンコク)  | 27 BarChip Brasil (ブラジル/サンパウロ)       |
|          | 18 Hagihara Industries Yguazu SRL (パラグアイ/シウダー・テル・エステ) | 28 BarChip Chile (チリ/サンティアゴ)         |

### 販売実績のある国・地域

- |   |  |   |  |   |                |
|---|--|---|--|---|----------------|
| <b>ASIA</b><br>日本<br>中国<br>韓国<br>香港<br>台湾<br>バングラデシュ<br>ミャンマー<br>ラオス<br>タイ<br>ベトナム<br>フィリピン<br>マレーシア<br>シンガポール<br>インドネシア<br>トルコ | ヨルダン<br>イラン<br>サウジアラビア<br>ドバイ<br>パキスタン<br>インド<br>スリランカ<br>モンゴル | <b>SOUTH AMERICA</b><br>コロンビア<br>エクアドル<br>ペルー<br>ボリビア<br>ブラジル<br>アルゼンチン<br>チリ<br>ウルグアイ<br>パラグアイ | <b>EUROPE</b><br>スウェーデン<br>ノルウェー<br>フィンランド<br>エストニア<br>アイルランド<br>イギリス<br>オランダ<br>ドイツ<br>ポーランド<br>ベルギー<br>フランス<br>オーストリア<br>ハンガリー<br>スロベニア<br>ルーマニア | イタリア<br>スペイン<br>ポルトガル<br>ブルガリア<br>ロシア   | モーリシャス<br>エジプト |
|   | <b>NORTH AMERICA</b><br>カナダ<br>アメリカ<br>メキシコ                    |   |  |   |                |
|   | <b>CENTRAL AMERICA</b><br>グアテマラ                                |   |  |   |                |
|   |  |   |  | <b>OCEANIA</b><br>オーストラリア<br>ニュージーランド<br>バブアニューギニア<br>ミクロネシア連邦<br>ツバル<br>バヌアツ |                |

(2022年10月31日現在)

## 株式情報

(2022年10月31日現在)

上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場  
証券コード 7856  
事業年度 11月1日から翌年10月31日まで  
定時株主総会 1月  
基準日 定時株主総会 10月31日  
期末配当 10月31日  
中間配当 4月30日  
発行可能株式総数 36,000,000株  
発行済株式総数 14,897,600株  
単元株式数 100株  
株主数 31,252名  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

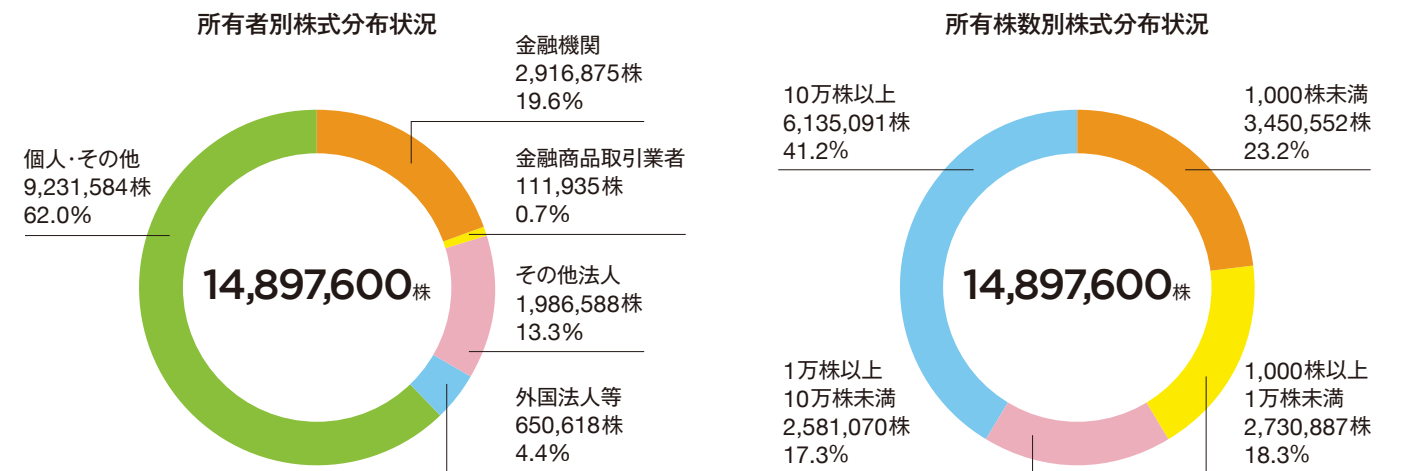
### 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
萩原株式会社	1,435	10.21
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,284	9.14
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	666	4.74
萩原工業従業員持株会	451	3.21
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	403	2.87
萩原 邦章	341	2.43
萩原 賦一	200	1.42
株式会社広島銀行	200	1.42
株式会社三菱UFJ銀行	200	1.42
株式会社商工組合中央金庫	100	0.71

(注)1. 当社は自己株式851,438株を所有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
2. 持株比率は自己株式を控除して算出しております。

## 株式分布状況

(2022年10月31日現在)



## 会社概要

(2022年10月31日現在)

社名 萩原工業株式会社(HAGIHARA INDUSTRIES INC.)  
本社 〒712-8502 岡山県倉敷市水島中通一丁目4番地  
TEL.086-440-0860 FAX.086-440-0869  
代表者 代表取締役社長 浅野 和志  
設立 1962年(昭和37年)11月29日  
資本金 17億78百万円  
社員数 1,299名(グループ全体)  
481名(単体)  
主な事業内容 ポリエチレン・ポリプロピレンを主原料とした合成樹脂繊維「フラットヤーン」を用いた関連製品、およびフラットヤーン技術を応用したスリッター等、産業機械の製造・販売。



萩原工業ウェブサイト  
<https://www.hagihara.co.jp/>





<https://www.hagihara.co.jp>